

# 1年生(69回生)の授業風景を紹介します

国際人道法という言葉を知ったという人も多くいました。難しそうと思っていましたが、調べていくうちにその重要性が分かってきました。そして、赤十字と密接に関係していることが分かりました。

「人権と赤十字」の授業で、私たちは、国際人道法について調べました。



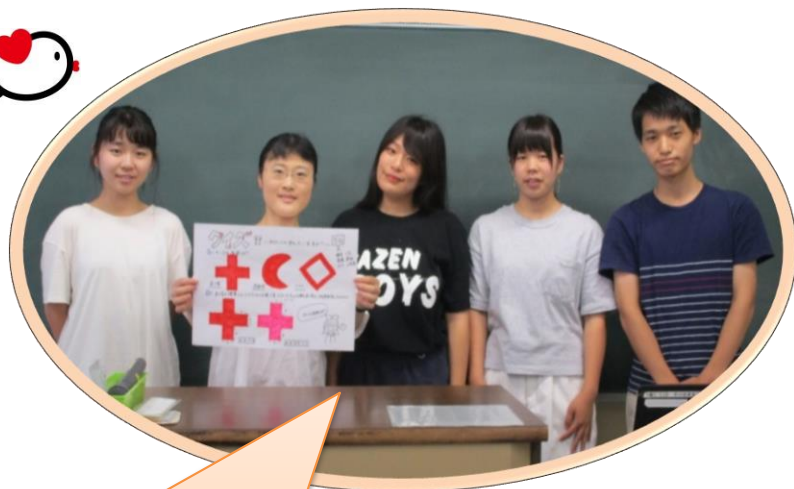
国際人道法は、紛争の影響を最小限に抑えることを目的とする国際的なルールの総称です。

発端は赤十字の父であるアンリー・デュナンが、自らの傷病者の救護体験を基に1862年に出版した「ソルフェリーノの思い出」の中の2つの提案でした。1つは、「平時から戦争に備え、傷病者を救護する団体を各国が組織しておくこと」で、これが各国の赤十字社の設立に繋がりました。2つ目が、「その活動の目的のために国際的な条約を締結しておくこと」で、これが人道法の始まりとなるジュネーブ条約(赤十字規約)の成立に繋がりました。



なかなか上手く描けているぞ！





私たちは赤十字標章について調べました。身近な赤十字マークも知らずに模倣や許可なく使用すると罰則があります。他にも「赤新月」や「レッドクリスタル」を使用する国もあります。みなさん、知っていましたか？



私たちは、国際人道法の適用についてクイズ形式で発表しました。

国際人道法で保護されるのは、戦闘行為に参加しないすべての人です。また、病院や安全地帯、中立地帯など非武装地帯を攻撃することはできません。その他、人々の生存に不可欠な施設や文化財、礼拝所、破壊されると人々に重大な被害を与えかねない危険なエネルギーを内蔵する施設なども保護の対象になります。

正直、こんなに人々の生活に影響を及ぼす物の攻撃を禁止しているとは思っていませんでした。





私たちは、「**国際人道法の敵は無知である**」と考えます。私たちにできることは、国際人道法について理解し、身近な所から普及活動をしていくことだと思いました。



赤十字と国際人道法は当初から切っても切れない密接な関係にあり、ICRCは一貫して国際人道法の発展に努め、武力紛争の犠牲者の保護、救済を図り、世界の平和の実現に寄与してきました。しかし今なお、世界中で紛争やテロがおさまることはありません。赤十字の看護学生として、世界で起こっていることにも目を向け、国際人道法を一人でも多くの人に伝えていきたいと思いました。

